

埼玉県地域学校協働活動情報通信

コラボ

COLLABO

2024 Vol.1

特集

地域学校協働活動推進に 関する研究委嘱研究計画

【研究テーマ】

地域で子供を育てる意識の向上に向けた
「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の
一体的取組」の推進

地域学校協働活動推進に関する研究委嘱 研究計画

【テーマ】

地域で子供を育てる意識の向上に向けた
「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的取組」の推進

地区	研究委嘱市町村教育委員会	研究指定校	個別のテーマ
南部	川口市	川口市立前川東小学校	子供たちの成長を支える地域学校協働ネットワークの充実～学校運営協議会のつながりを生かした放課後子供教室の実現～
西部	日高市	—	コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の推進～「学校を核とした地域づくり」を進めるための学校運営協議会と地域学校協働本部の役割～
北部	深谷市	深谷市立深谷小学校	コミュニティ・スクールと放課後子ども教室の一体的な推進～深谷小学校平日放課後子ども教室への幅広い地域住民の参画を目指して～
東部	春日部市	春日部市立江戸川小中学校	学校運営協議会を原動力とした地域学校協働活動の推進と充実～未来の地域へつながる学校づくりネットワークの構築～

埼玉県では、学校だけでなく、地域住民と連携・協働し、学校と地域が相互にパートナーとして、一体となって子供たちの成長を支えていくことが重要であると考え、地域学校協働活動に関する研究委嘱を行っている。

地域学校協働活動を推進していく上で、学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組む「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」と、学校と地域が相互にパートナーとして行う「地域学校協働活動」を一体的に実施することが重要である。学校運営協議会で協議し、協議したことを地域学校協働活動で実践する。地域学校協働活動で実践したことを学校運営協議会で振り返り・評価し、次年度への改善・反映につなげていく。コミュニティ・スクールと地域学校協働活動をPDCAサイクルで実施することで、学校と地域が連携・協働する体制を構築していくことができる。

令和6年度、令和7年度の2年間の研究委嘱では、川口市、日高市、深谷市、春日部市の4市の教育委員会に学校と地域が連携・協働した取組を進める方策や運用上の課題などについて、実践を通して調査・研究を進めていただく。

今年度は研究委嘱の一年目。ここでは、研究委嘱市町村教育委員会の研究計画の概要を紹介する。

- 研究委嘱期間 令和6年度・令和7年度の2年間
- 研究委嘱 川口市教育委員会 日高市教育委員会
深谷市教育委員会 春日部市教育委員会
- 地域学校協働活動実践発表会(令和7年度開催)で研究実践を発表

川口市教育委員会

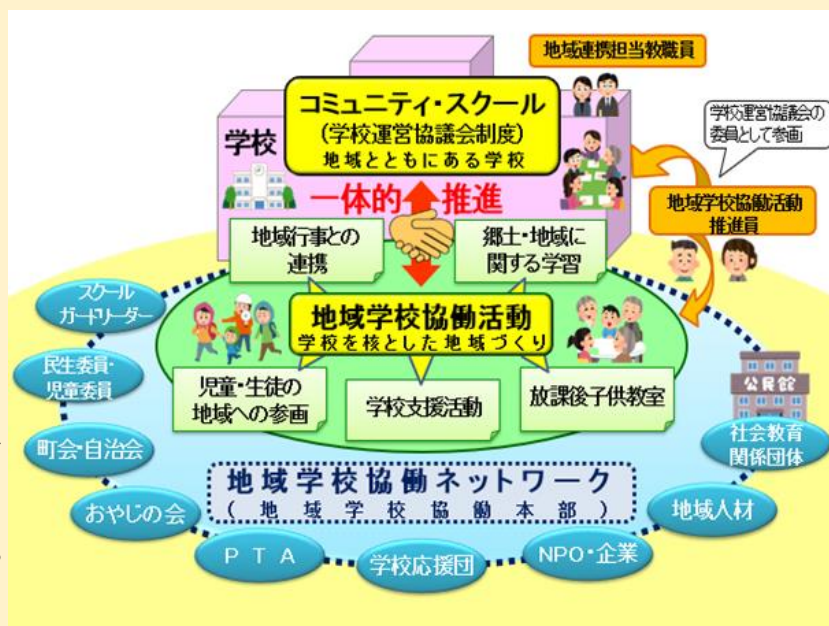
テーマ

子供たちの成長を支える地域学校協働ネットワークの充実

～学校運営協議会のつながりを生かした放課後子供教室の実現～

川口市は、令和3年度に学校運営協議会を、令和4年度には地域学校協働活動推進員を全校設置する等、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の推進に取り組んできた。

研究に当たっては、新たに放課後子供教室を開設する川口市立前川東小学校を研究指定校として、学校運営協議会において放課後子供教室設置について協議を行い、地域の力を活用した地域全体で子供たちの育成を目指す、放課後子供教室の運営組織を設立していく。



地域が運営する 放課後子供教室

前川東小学校では、地域学校協働活動が活発に行われている。毎週の朝の読み聞かせや商店会の方々によるゲストティーチャー、グランドゴルフ体験など地域の方との交流が多く、地域の力が充実している学区である。

新設する放課後子供教室では地域の教育力を活用して、学校でもっと取り組みたい体験を放課後子供教室で実施したり、子供たちに体験活動を通して知らないことに気づいてもらったりと子供たちが心豊かに育まれる環境をつくっていく。

地域の教育力を活かした地域が運営する放課後子供教室の設置を進めていく。

持続可能

学校運営協議会でつながっている4つの町会を運営団体として放課後子供教室を開設する。

4つの町会の代表者の方との意見交換では放課後子供教室をスタートする際は、地域の方が楽しんでできること、やったことがあること、これだったらできることをやってみるという意見が出た。

無理なく、子供たちの豊かな体験となる良いかたちを目指し、参画する地域の方の「やりがい」につなげることで、持続可能な放課後子供教室の運営を目指していく。

地域学校協働 ネットワーク

学校運営協議会で放課後子供教室について協議することで、学校・家庭・地域の思いや願いが共有される。思いが共有されることにより、放課後子供教室の運営が当事者意識を持って展開され、地域のネットワーク「地域学校協働活動ネットワーク」を構築し、多様な活動・継続的な活動にしていく。

また、顔が見える関係をつくっていくことで、放課後子供教室を中心とした「地域学校協働ネットワーク」を充実させ、地域の防犯・防災体制の強化や地域の教育資源のより有効な活用を推進していく。

日高市教育委員会

テーマ

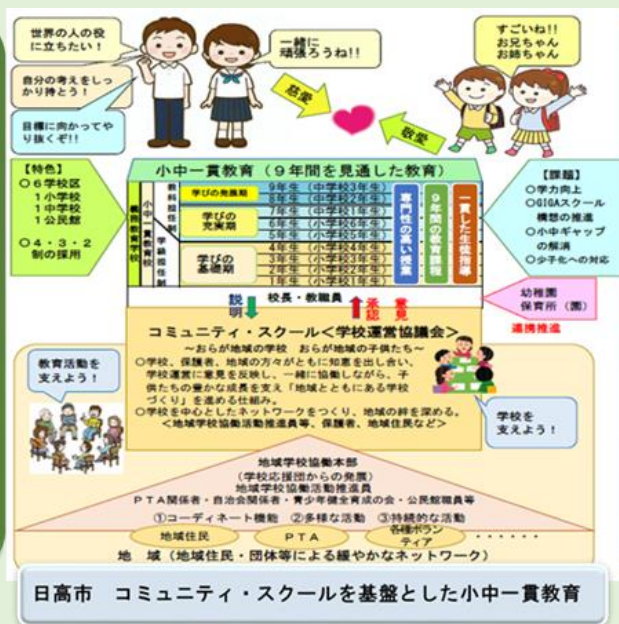
コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の推進

～「学校を核とした地域づくり」を進めるための学校運営協議会と地域学校協働本部の役割～

日高市は、日高市小中学校未来構想として、令和2年度から「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」を導入した。市内全6地区に1小学校・1中学校・1公民館が立地する利点を生かし、地区ごとに学校運営協議会を設置している。令和5年度には全ての地区で地域学校協働本部を立ち上げ、学校と地域の交流について新たな組織編制を行い活動を進めている。

各地区の特長を生かし、小中一貫教育を充実させ、地域の活性化を促すための学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な取組について実践研究を行う。

支えよう！次代を担う地域の子供たち



学校教育と 社会教育

日高市は、「地域とともに歩む学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を目指している。地域とともに歩む特色ある教育の推進に向けて、①地域の幅広い企業・団体・機関等と協力する「緩やかなネットワーク」構想の取組、②地域学校協働活動の一層の推進、③生活科と総合的な学習の時間を融合し、地域の課題を解決する新しい教科「ふるさと科」を導入して、地域の人的・物的資源の活用を図り、学校教育と社会教育の協力体制の確立を進めていく。

公民館

日高市では、各学校区に1名ずつ地域学校協働活動推進員が委嘱されており、学校運営協議会の委員となり学校と地域のつなぎ役を担っている。

しかし、地域学校協働活動推進員は地域の方であり、実務については難しい面もある。

そこで、日高市では地域学校協働活動推進員は公民館長と連携して活動を行うこととし、地域学校協働活動推進員の庶務は公民館にお願いしている。

学校教育と社会教育をつなぐキーパーソンとして、地域の学習拠点である公民館の特長を生かした研究実践を進めていく。

教員の参加 を促す工夫

日高市は、小中一貫教育「目指す15歳像」の実現に向け、学校と地域がビジョンを共有して取り組んでいる。

学校の思いを地域が知り、地域の思いを学校が知ることが大切であり、学校運営協議会は学校と地域がビジョンを共有するための機会として有効である。

しかし、学校運営協議会には管理職である校長等が出席し、公務の都合上担任などの教員の出席は乏しい。お互いに思いを知り学校と地域が一体となって取り組んでいくために、学校運営協議会に教員が参加するなど、教員へのアプローチの仕方を検討していく。

深谷市教育委員会

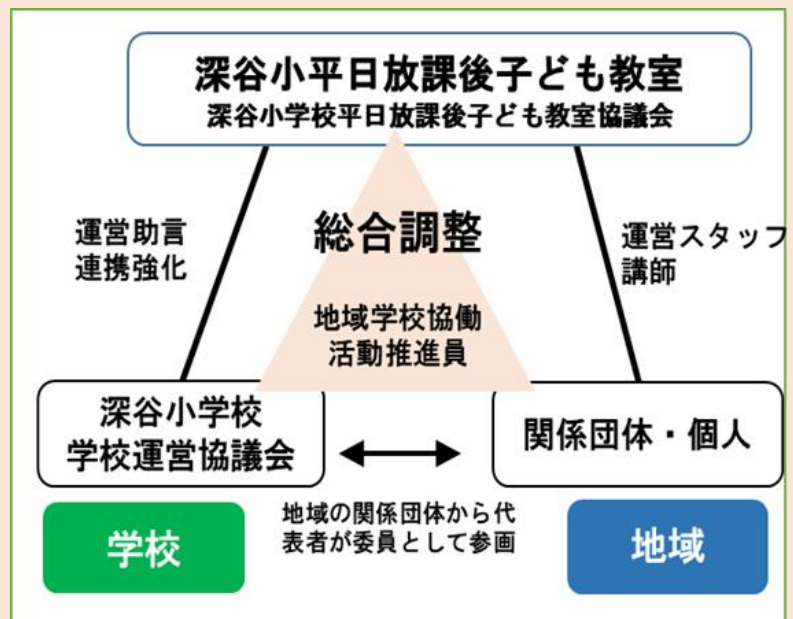
テーマ

コミュニティスクールと放課後子ども教室の一体的な推進

～深谷小学校平日放課後子ども教室への幅広い地域住民の参画を目指して～

深谷市では、令和元年度に平日放課後子ども教室を開設し、令和5年度は小学校5校で教室を実施した。平日放課後子ども教室の事業が各学校において浸透しつつあるものの、ボランティアやスタッフ、講師の確保が難しいという課題が挙がっている。

そこで深谷市は個人に頼らない、自走するシステムの構築を目指し、学校運営協議会を活用することで、地域住民のネットワークを広げ、放課後子ども教室における魅力ある学びの提供につなげるべく研究を計画している。



地域学校協働活動推進員

深谷市では、地域学校協働活動推進員が各小中学校に1名ずつ委嘱されている。委嘱された地域学校協働活動推進員は学校運営協議会に委員として参加をしている。

そこで、地域学校協働活動推進員の役割を明確化して、学校運営協議会で事業の趣旨と目標の浸透を図り、地域住民のネットワークを広げ、放課後子供教室へ関わる人材の発掘を行う。

いわば、地域学校協働活動推進員が学校と地域、放課後子ども教室をつなぐ総合調整役であるコーディネーターとして活躍することを期待している。

地域人材の発掘

学校運営協議会を通して、学校と地域が、目指す子供像などの目標を共有する。

目標を共有することで、地域学校協働活動推進員は、放課後子ども教室を実施するのに必要な経験や技能・スキルを持った地域の住民に、協力を要請し、人材を集めることができる。

例えば、深谷市では英語に触れさせることを通して豊かなコミュニケーション能力を育成することを目指しているが、放課後子ども教室で英語に関わる活動プログラムを実施することについて、学校運営協議会で議題に挙げるといったことも考えられる。

放課後子ども教室の周知

放課後子ども教室の認知度は地域の住民にとってはまだまだ低い。多くの地域住民に参画してもらうためには、放課後子ども教室の活動を知ってもらう必要がある。

地域の方に周知するツールは様々ある。例えば、地域拠点である公民館が発刊している公民館だよりを活用する。この場合、公民館利用者に周知することで、様々なスキルを持った方や活動に興味がある方に伝えることができると考えられる。

幅広い地域の方に周知するために、より良い方法を検討していく。

春日部市教育委員会

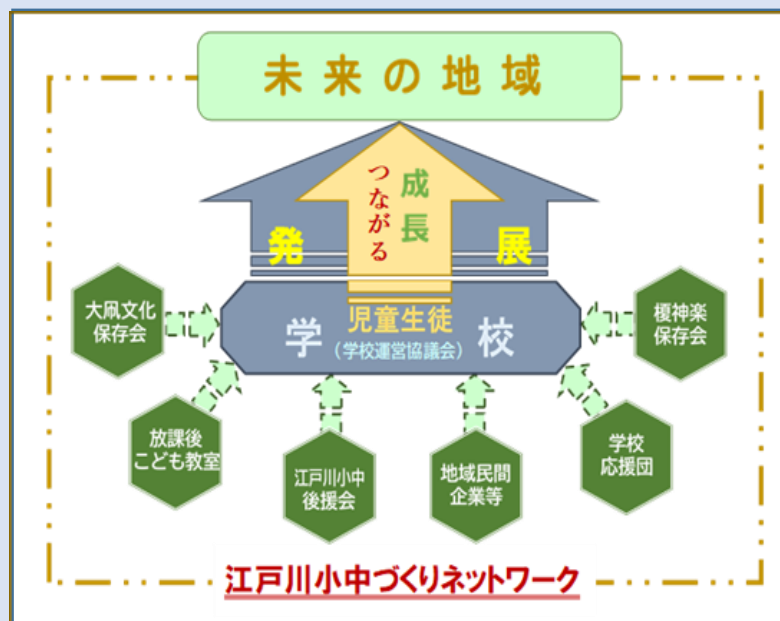
テーマ

学校運営協議会を原動力とした地域学校協働活動の推進と充実

～未来の地域へつながる学校づくりネットワークの構築～

春日部市は、春日部市立江戸川小中学校を研究指定校に研究を進めていく。春日部市立江戸川小中学校は、令和元年度に県内初、公立の義務教育学校として開校した。令和2・3年度に市の委嘱により「コミュニティ・スクール研究モデル校」として、学校運営協議会を設置して実践研究に取り組み、学校運営協議会を学校づくりの基盤に据えてきた。

学校運営協議会のさらなる活性化をとおして、地域との結びつきの強化に向け、「地域に開かれた教育課程」と「地域と協働する学校づくり（地域学校協働活動）」の実現を目指している。



地域学校協働 活動推進員

江戸川河川敷で毎年行われる大風あげ祭りは、江戸時代から続く伝統行事であり、県外からも多くの見物客で賑わう。豊かな文化に溢れた地域の伝統・文化の継承と地域の歴史や特色について理解を深めるため、江戸川小中学校は地域の教育資源を活用した様々な体験や価値観に触れる「地域に開かれた教育課程」の充実を図っている。

教育課程実施に係る地域の協働性を高め充実した地域学校協働活動を推進していくため、学校と地域のつなぎ役である地域学校協働活動推進員の効果的な活用を吟味する。

ネットワーク づくり

学校運営協議会との強固な関連付けを視座に地域学校協働活動を効果的に推進する「江戸川小中づくりネットワーク」の組織編制を行う。

「江戸川小中づくりネットワーク」の趣旨は①地域に開かれた教育課程の実施、②安全で充実した学校運営と環境づくりである。

地域の関係諸団体や企業等の幅広く充実した「江戸川小中づくりネットワーク」が構築されることにより、地域に開かれた教育課程が効果的に実現され、児童生徒や教職員の地域への貢献意識と地域住民の学校運営への参画意識が共に高まることを期待している。

熟議の工夫

春日部市は令和5年度に学校運営協議会を全校に導入した。学校運営協議会では、学校や保護者、地域住民等の様々な立場の関係者により、学校運営や地域との協働について話し合いが行われている。

今回の研究委嘱では、学校運営協議会がさらに「熟慮」と「議論」による熟議に発展するべく、研究を進めていく。江戸川小中学校が熟議に向けた工夫を進め学校運営のさらなる質的向上を図ることで、春日部市内全学校の学校運営協議会の充実につなげていく。

地域学校協働活動 N E W S

地域学校協働活動推進委員会を開催

学校と地域との連携・協働で課題と感ずることは、

- 地域・学校ごとに実情が異なり、**地域差**が大きい。
- コミュニティ・スクール所管課と地域学校協働活動所管課と行政で**所管が違う**。
- 教員の負担を増やさない**よう、学校の働き方改革で教員の参加に消極的になってしまう。

た。協議として、様々な立場の方々から御意見をいただいた。協議では、「学校と地域の連携・協働について」を協

学校では管理職のみが活動に参加するなど、地域と学校がアンバランス。**何のための地域学校協働活動か**を改めて考えなくては行けない。

地域の子供たちのために学校応援団の活動に参加したり、放課後子供教室で子供と一緒に活動してやりがいを感じている人は多い。しかし**活動の協力者が少なくなってきた**。

コロナ禍もあって、学校と家庭・地域の連携、先生方とPTA・地域の方との連携が希薄。それに伴って、地域同士の連携も希薄になっている。**人間関係・絆**が大切であると感じる。**人とつながっていくことが重要**。

他県の事例で思うことは、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に取り組むことについて、一番理解が足りていないのが教職員。学校の中にいる**教職員が学校運営協議会の趣旨を分かっていない**。教職員が地域の方と共に理解していくことが重要。

地域学校協働活動を進めるに当たって、どういふことをやっているのか、教職員も地域の方も知っていく必要がある。

地域学校協働活動 N E W S

地区別地域学校協働活動担当者会議で

県内4地区の教育事務所（南部、西部、北部、東部）単位で設置される地域学校協働活動担当者会議が6月に行われた。市町村の学校応援団担当者や放課後子供教室担当者が参加し、情報交換・意見交流が行われた。（写真は西部地区担当者会議の様子）



「人材確保」について－情報交換の事例から－

公民館に学校応援団の募集を掲示。

昼間に活動できる地域の方へ周知を図った。

コーディネーターが地域に呼びかけボランティアを募集。活動に誘って、次のコーディネーター候補と一緒に活動もしている。人と人のつながりが重要と捉えている。

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的取組」について

郷土学習について学校運営協議会で議題に挙げたことで、学校のねらいを共有していただき、学校応援団の方々が積極的に協力。

先生方にも参加してもらうため、短い時間であったが放課後の勤務時間に学校運営協議会を開催した。

学校運営協議会に子供が参加して意見を述べる機会を設け、学校運営協議会の活性化を図った。

公民館職員に学校運営協議会委員になっていただいたことで、学校教育と社会教育をつなげる橋渡し役を担っていただいている。

開催します！



- ▶放課後子供教室の活動内容の充実、放課後児童クラブとの連携を推進するため、放課後子供教室及び放課後児童クラブの関係者を対象に研修会を開催します。

放課後コーディネーター研修会

定員 **50名**
(先着順)

日 時

8月23日(金)

13:30 ~ 16:30

会 場

県民健康センター

〒330-0062

さいたま市浦和区仲町3-5-1

アクセス

浦和駅から 徒歩 15 分

中浦和駅から 徒歩 20 分

講 演

「放課後の子どもの安全管理と指導のポイント」

特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所

理事長 宮田 美恵子 氏

事例発表

放課後子供教室 川島町教育委員会生涯学習課

放課後児童クラブ 社会福祉法人富士見市社会福祉事業団

放課後児童クラブ事務局

ワークショップ

「放課後の防災・防犯訓練における連携について」

特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所

理事長 宮田 美恵子 氏

申込方法

右記の二次元コードもしくはURLからお申込みください。

申込期間

7月12日(金) ~ 8月14日(水)



【URL】

https://apply.e-tumo.jp/pref-saitama-u/offer/offerList_detail?tempSeq=76688

受講までの流れ



二次元コードからお申込みください。



登録アドレスに
開催1週間前までに
受講決定通知が
届きます。



登録アドレスに、
研修開催3日前を
目途に資料が届き
ます。



当日、会場まで
お越しください。

埼玉県地域学校協働活動情報通信

コラボ

COLLABO

2024 Vol.1

発行元：埼玉県教育局教育総務部生涯学習推進課

令和6年7月発行

電話：048-830-6979

E-mail：a6975-05@pref.saitama.lg.jp(ご意見、ご感想はこちらまで)